



編集後記

最近よく「サウジアラビア」が旅行番組等のメディアに登場する。従来はイスラム教徒以外の訪問を制限してきた「閉ざされた王国」だったが、2019年9月に観光ビザを解禁。女性の服装に関する規定も緩和され、日本人を含む一部外国人の入国が可能になり、さらに2022年になるとイスラム教の聖地であるメディナへの観光客受け入れも解禁され、注目の観光地となった。この劇的な方向転換を推進しているのは、王国を実質的に率いている、次の王位を約束された32歳のムハンマド皇太子（閣僚評議会議長）である。

石油が生み出す富から脱却し、石油王国から技術立国への転換をめざし、「現代化」に着手しているのだ。民間部門の発展や社会の近代化を推し進め、石油に依存しない経済への転換を目指し、日本のソフトバンクグループとともに原子力発電所200基分に相当する200ギガワットの太陽光発電所の建設に着手するという。

首都リヤドは超高層ビルがそびえるメトロポリスだが、博物館や史跡も点在し、グルメやショッピングのみならずナイトスポットも充実しており、思う存分サウジアラビアを満喫できると謳う。米国のトランプ元大統領とともに、イランの最高指導者を「ヒトラー」と断罪し、強硬路線を突き進む一面も持ち合わせているが、それでもこの若き指導者の下で、サウジアラビアは急速な近代化と国際化を推進している。

一方で2022年1月24日にはロシアがウクライナに侵攻。さらに2023年10月7日にはパレスチナのガザ地区を支配するハマスによるイスラエルへの攻撃を端を発し、イスラエル・ハマス戦闘が勃発。ロシア連邦の指導者ウラジミール・プーチン大統領は1952年生まれ、ハマスの指導者であるヤヒヤ・シンワル氏は諸説あるが1962年生まれ、受けて立った形のイスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は1949年生まれである。

今年注目の米国の大統領選の候補とされるジョー・バイデン氏は1942年生まれ、一方のドナルド・ジョン・トランプ氏は1946年生まれ、さらに急速な経済成長と凋落の中にある中華人民共和国の習近平主席は1953年生まれである。

いずれも70過ぎ、バイデン氏に至ってはすでに81才であり、トランプ氏も当選すれば4年間の任期中に80歳を超える。

サウジアラビアのムハンマド皇太子が1985年生まれであることを考えると、いま世界の中では若き指導者は未来を見据え改革を推進し、年老いた指導者は破壊とエネルギーの浪費を引き起こす古臭い「戦争や分断」に執着しているように思えてならない。

現時点での我が国のリーダーである岸田首相は1957年生まれ。日本も、米国も、ロシアも、イスラエルも、次世代の若きリーダーが不在なのではないだろうか。

(溪)

月刊 公論

4月号 第57巻4号

令和6年4月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社広済堂ネクスト
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。